

令和5年9月11日

保護者様

基山町立若基小学校
校長 末安 殉治

令和5年度全国学力・学習状況調査（6年生）及び
令和5年度佐賀県学習状況調査（5年生）の実施結果について（概要）

今年の4月全国の国・公・私立学校の小学校6年生を対象に、「令和5年度全国学力・学習状況調査」が、佐賀県の小学校5年生を対象に「令和5年度佐賀県学習状況調査」が実施されました。今年度分の調査結果の概要をまとめましたのでお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることをご理解くださいますようお願いいたします。

【全国学力・学習状況調査 6年生の結果】

○生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要 （ ）は全国平均

(1) 特に良い傾向が見られる主な項目

- ・「PC、タブレットなどのICT機器を使った授業を受けている。」73.8% (62.8%)
- ・「人が困っているときに進んで助けている。」97.6% (91.6%)
- ・「将来の夢や目標を持っている。」85.7% (81.5%)

他にも、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」等全国平均と比較して、よい傾向がみられる項目がありました。

(2) 課題が見られる主な項目

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」64.3% (70.7%)

他にも、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。」等全国平均と比較して、課題がみられる項目もありました。

○教科ごとの調査結果の概要

【正答率】	国 語	算 数
若基小学校	64.0%	59.0%
佐賀県	68.0%	61.0%
全 国	67.2%	62.5%

(1) 国語の調査結果概要について

- ・国語全体については、全国平均と比べて、やや低い結果であった。
- ・「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均と比べて高い結果となった。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「読むこと」については、全国平均と比べて低い結果となった。
- ・文章を読んで理解したことを条件に合わせて書く問題に課題が見られる。

(2) 算数の調査結果概要について

- ・算数全体については、全国平均と比べて、やや低い結果であった。
- ・「伴って変わる2つの数量が比例関係であることを用いて解く問題」や「日常生活の場面を解釈し、加法や乗法を用いて解く問題」については、全国平均と比べて高い結果となった。
- ・「図形」や「データ活用」の領域については、全国平均より低い結果となった。

【佐賀県学習状況調査 5年生の結果】

○教科ごとの調査結果の概要

〔正答率〕	国 語	算 数
若基小学校	73.9%	69.1%
佐賀県	67.4%	61.6%

(1) 国語の調査結果概要について

- ・全体については、県平均と比べて、高い結果であった。
- ・「言葉」の領域の正答率が高く、特に、「漢字の読み書き」「ことわざの意味」、「漢字辞典の使い方」について、よく理解している。
- ・話し合いの中で、互いの意見の相違点や共通点に着目して自分の考えをまとめる問題の正答率が低い。
- ・条件に合わせて自分の考えを文章で表現する問題に課題が見られる。

(2) 算数の調査結果概要について

- ・全体については、県平均と比べて、高い結果であった。
- ・「数と計算」、「データの活用」領域の正答率が高い。特に、計算の仕方や計算の順序については、よく理解している。
- ・「割合」、「図形の作図」、「対角線」に関する問題の正答率が低い。
- ・文章問題の場面を理解し、言葉や数、式を使って説明する問題に課題が見られる。

教科の調査結果より

5・6年生の児童は、学習中、課題解決に向けて落ち着いて取り組むことができます。このことが、基礎基本の定着につながっていると思われます。一方で、今回の結果を見ると、条件に合わせて自分の考えを文章で表現したり、数・式・言葉に関連させて理由を説明したりする問題の正答率が低いことから、5・6年生共に、記述力に課題が見られました。そこで、観点や条件を意識した表現活動（書く活動や話す活動）を取り入れた授業を充実させることで、表現力を高めていきたいと考えています。

若基小学校の学力向上の取組方針

- 1人1台端末等のICTを活用した学力向上のための取組を推進します。
- 1人1人が進んで伝え合う児童を育成するために、思いや考えを言葉で伝える力を育むための言語活動を推進します。
- 条件を基に、自分の考えや振り返りを書く活動を取り入れ、記述力の向上に努めます。

保護者の皆様へ（ご家庭での協力お願い）

各家庭で、朝食を食べる、決まった時刻に寝るといった生活リズムを整えてくださっているおかげで、子供たちは、学校で元気に過ごすことができます。

学習の仕方に目を向けると、6年生の調査結果から、自分で計画を立てて勉強することが苦手な児童が、全国平均と比べて多いことが分かりました。「計画を立てて、取組を継続すること」や「取組を振り返り、次の計画に生かすこと」は、生涯にわたって学び続ける力を育むことにもつながります。そこで、子供たちに、計画を立てて取り組むよさを伝えたり、自己肯定感が高まる声掛けをしたりすることで、学習意欲の向上を目指していきたいと思います。

子供たちが学習習慣を確立するまでにはとても時間がかかります。ご家庭でも、お子さんの様子を見守ったり、時に一緒に取り組んだり、個々に応じた励ましや支援を引き続きお願いできればと思います。

今後も、子供の実態を共有し、学校と家庭の両方で子供たちを見守りながら、確かな学力を育てていきたいと思います。